

重点目標	具体的方策	評価指標と活動計画		評価		評価サイクルの検証	次年度に残された課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価	(評定)		
学ぶ喜びのある学習指導を充実させる。	① 個に応じたきめ細かな指導を行い、学習習慣を定着させ、確かな学力を身につけさせる。 ② 表現力を身につけさせるとともに、学ぶ喜びのある学習指導の充実を図る。 ③ 研修を通じて授業改善を図り、授業への理解度を高める。 ④ 小・中一体型校の特性を生かし、小・中学校の継続した指導に努める。	①-1 「良さががんばりを認めてくれる」を児童・生徒全員における評価を100%にする。 ①-2 「家庭学習の習慣がついている」における評価を100%にする。 ①-3 定期テストの正解率を70%以上にする。 ② 「調べ学習や体験活動が充実している」の評価を80%以上にする。 ③ 「授業は楽しくわかりやすい」と全員が評価できるようにする。 ④ 小・中合同の研究授業を行う。	①-1 「良さががんばりを認めてくれる」の問いにほとんどの児童・生徒は肯定的な答えであったが、一部「わからない」と答えていた。 ①-2 85%以上の児童・生徒が「できている」という評価であったが、1/3の保護者が「できていない」と答えており、意識のずれがみられるとともに、家庭と連携した取り組みが必要である。 ①-3 正解率は62.4%と昨年度より5ポイント下がった。 ② 100%の生徒が肯定的な意見であった。 ③ 全員が「授業は楽しくわかりやすい」と評価している。 ④ 小・中合同の研究授業を充分行うことができなかった。	(評定) B ----- (所見) 児童・生徒には、授業や体験活動等に対して高い評価であったが、定期テストの結果は前年度を下回った。さらに指導法の工夫改善を図り、家庭と協力して家庭学習の充実を図りながら、学力の定着や小中一体校の特性を生かした教育に努めていく必要がある。	① 「授業は楽しくわかりやすい」「良さががんばりを認めてくれる」と児童・生徒は感じている。また、「家庭学習もできている」と肯定的であったが、保護者との認識の違いもあり、方法や内容について改善する必要がある。 ② 表現力の育成を図ってきたが、まだまだ十分に育っているとは判断しがたい。児童・生徒が調べ学習や体験活動が充実していると感じていることは、次年度へつなげていく。 ③ コンピュータ等のICT機器を活用した授業が行われ、様々な体験活動も充実していると評価された。環境学習に対する児童・生徒の評価が低かった。 ④ 小・中で行う行事や活動を通して、お互いの良さや課題について共有することができた。	① 学力向上のための家庭と学校の連携を強化し、学習習慣の定着を図る。 ② あらゆる教育活動の中で言語能力や表現力を育成していかなければならない。特に、児童・生徒が充実していると感じている体験活動等で取り組みをすすめる。 ③ 自然環境や省資源・省エネルギーに関する学習の機会を増やす。 ④ 授業をすすめていく上での学習規律や効果的な学習方法について研修を行う。	
		活動計画 ① 個々の生徒の状態について、共通理解を図る。 ② 学習の仕方や自主勉教のノートのまとめ方などの指導をする。家庭学習の点検をする。 ③ ICT機器を利用を推進する。	活動計画の実施状況 ① 共通理解ができた。 ② 「家庭学習の友」を使って指導を行ったが定着には至っていない。 ③ 単元にもよるが、ほとんどの授業で、ICT機器の利用ができた。				

重点目標	具体的方策	評価指標と活動計画	評価	価値	評価サイクルの検証	次年度に残された課題
<p>学校と地域との有機的連携のある学校運営を推進する。</p> <p>教職員一人ひとりの総意を結集した学校運営を行う。</p>	<p>① 学校の様子を保護者に伝える方法を工夫する。</p> <p>② 学校行事に保護者が参加しやすいような工夫をする。</p> <p>③ 地域の行事に積極的に参加し、また、開かれた学校づくりを行う。</p> <p>④ 小・中学校の垣根を越え、お互いの長所を取り入れた教育活動を行う。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 情報発信に関する保護者の評価を100%にする。</p> <p>② 「学校と家庭との連絡が密にできている」評価を100%にする。</p> <p>③ 年間5回以上地域行事に参加し、校区内での職場体験学習を実施する。</p> <p>④ 小中一体型の長所を生かし行事を見直す。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①② ともに肯定的な回答が100%であった。細やかで素早い対応が評価された。 また、昨年度「緊急時の連絡体制が整っていない」という指摘もあったが、改善された。</p> <p>③ 校区内での職場体験学習も含め、7回地域行事に参加することができた。</p> <p>④ かがやきフェスティバル(小学校の学習発表会)や剣山登山等の行事見直しが図れた。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>A</p> <p>----- (所見) ホームページ、学校だよりや学年だより等で保護者や地域の方々へ情報を発信してきた。また、学校の様子を伝えて、行事等の参加にも協力いただいた。児童・生徒数等の現状を踏まえ、行事の見直しが図れた。</p>	<p>① 今までのように、ホームページ、学校だよりや学年だよりを配布し、保護者のみならず地域の方々へも発信してきた。</p> <p>② 保護者の方々はとて協力的であり、小中関係なく何事にも協力していただける。また、地域の方々も協力的である。</p> <p>③ 地域行事や学校行事の関わり方について、児童・生徒数等の現状に応じた工夫ができた。</p> <p>④ 小中だけでなく、幼稚園を含めて連携を図っていく。</p>	<p>① 学校の様子を保護者に伝える場合には、個人情報に注意しなければならない。</p> <p>② 少人数である利点を生かし、より細やかで素早い連絡や対応を心がける。</p> <p>③ 地域と学校は共に協力し合い、地域活性化を図らなければならない。地域の実態を知る学習を通して、児童・生徒が自分の役割を知り、実行する力を養うことが大切である。</p> <p>④ 園児と中学生とでは成長の過程が大きく違うので、一緒にできる活動は限られるが、内容や方法を工夫する。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① 毎月、各種たよりを発行し、随時ホームページを更新する。</p> <p>② 毎月、オープンスクールを実施する。また、学校行事の度に案内を出し、保護者に参加してもらう。</p> <p>③ 地域行事への参加に努め、地域の事業所で職場体験学習を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 学校だよりや学年だより等を毎月発行したが、学年だよりのHP更新が不十分だった。</p> <p>② 十分にオープンスクールを開催できなかったが、学校行事等で地域の方々への情報発信を行い、参加していただいた。</p> <p>③ 地域行事に参加でき、職場体験も木屋平地域で体験の場をもつことができた。</p>			

重点目標	具体的方策	評価指標と活動計画	評価	価値	評価サイクルの検証	次年度に残された課題
全校体制で取り組む特別支援教育と人権教育を推進する。(特に、小・中学校の連携を生かして)	① 人権学習の時間を確保するとともに、小学校との連携を強化する。 ② 保護者への啓発活動を進める。 ③ 職員研修を充実し、特別支援教育に対する理解を深め、人権意識の改革を図る。 ④ 規律ある行動と、思いやりのある人への接し方ができる生徒を育てる。	評価指標 ① 小中合同での(地域)人権教育研究大会が実施できる。 ② 人権学習授業参観および講演会に多くの保護者の参加を得る。 ③ 計画的な教職員研修を実施する。 ④ 基本的な生活習慣や心の問題に関する好意的な評価を(生徒・保護者とも)80%以上にする。	評価指標による達成度 ① 人権に関する合同研修会の実施ができた。また、小中共通の人権課題を地域人権教育研究大会で行うことができた。 ② 人権学習授業参観を実施し、11名の保護者を含め、40名以上の地域の人たちの参加を得た。 ③ 積極的な研修はできなかったが、行事や日々の教育活動の中で個々のスキルアップができた。 ④ 基本的な生活習慣については、児童・生徒の80%肯定的な評価であったが、保護者は68%にとどまった。	総合評価 (評定) B ----- (所見) 「人権の大切さについて学べている」と児童・生徒、保護者とも評価された。日常生活の中で深め行動にうつすで差別解消への実践力を身につけさせた。 保護者の100%から「いじめや体罰がなく、学校は安全・安心である」と評価されており、今後も継続して取り組んでいく。	① 地域や児童・生徒の実態、保護者の願い等に応じた研究大会であったか検証してみる必要がある。 ② 人権学習の内容の充実が図られているかを検証していかなければならない。 ③ 児童・生徒の実態に応じた研修になっているかを検証して行かなければならない。 ④ 情意評価に陥ることなく行動評価も取り入れていく。	① アンケート調査を行い、地域や学校に応じた研究大会になるように工夫する。 ② 保護者や地域の意見を取り入れたり、新しい取組をおこなうよう工夫する。 ③ 人権教育主事、研修主任を中心として教職員の意見を取り入れた研修になるように、年間を通じて、計画的に研修を行う。 ④ 生活記録やアンケート調査、保護者との密な連携を通して、児童・生徒の家庭生活をより把握し、指導に取り入れる。
		活動計画 ① 年間12時間以上、人権学習を実施する。 ② 人権教育に関する研修を3回以上行う。	活動計画の実施状況 ① いろいろな人権課題を取りあげての人権学習が実施できた。 ② 県人研の発表原稿の推敲を中心に研修を行った。			

【備考】「総合評価」における「評定」の基準】 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった